

全国の学校教育情報化について

～高大接続改革期における多面的総合的評価とICT活用について～

2017/12/21

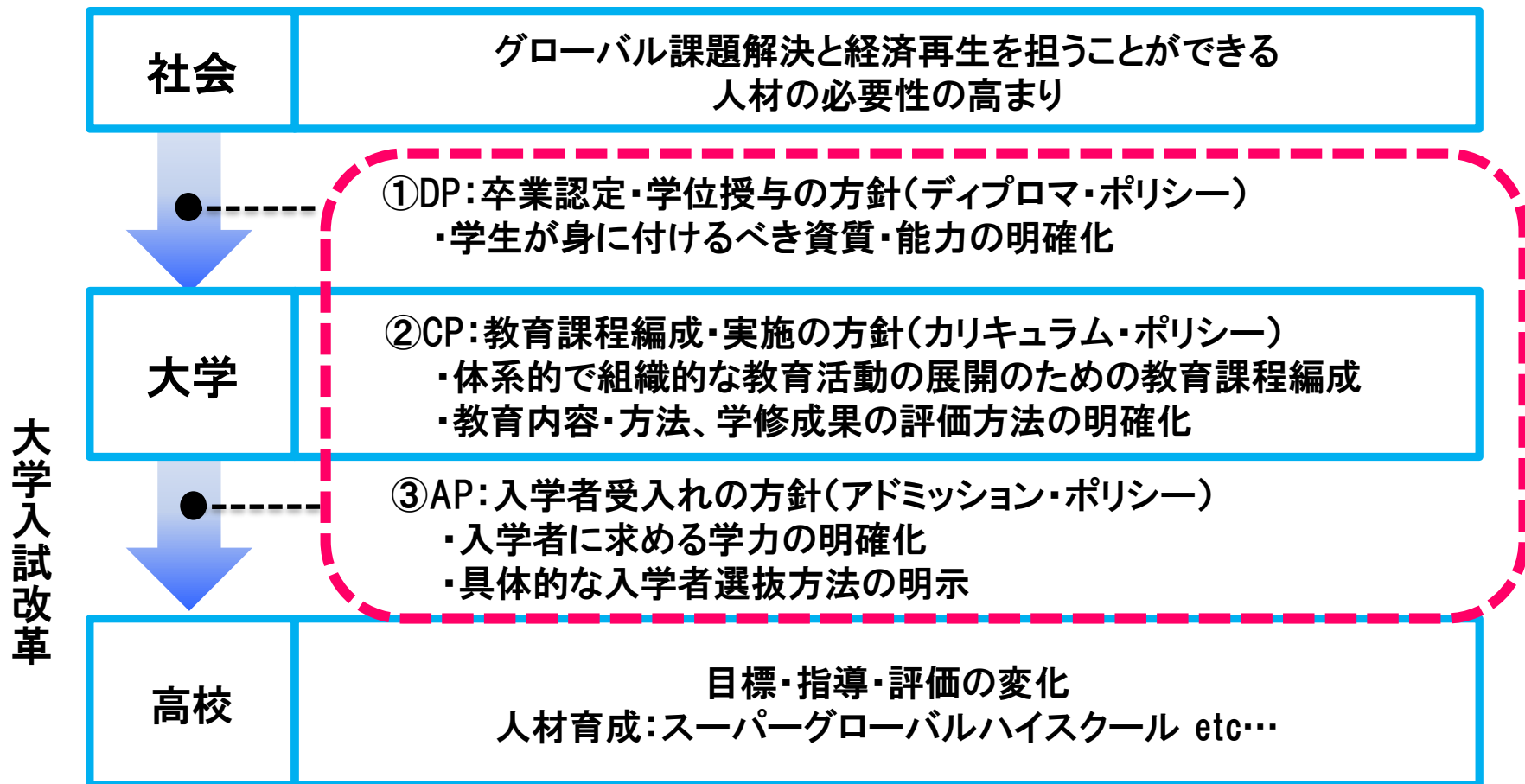
株式会社ベネッセコーポレーション
Classi株式会社
エリアマネージャー

安部 亨

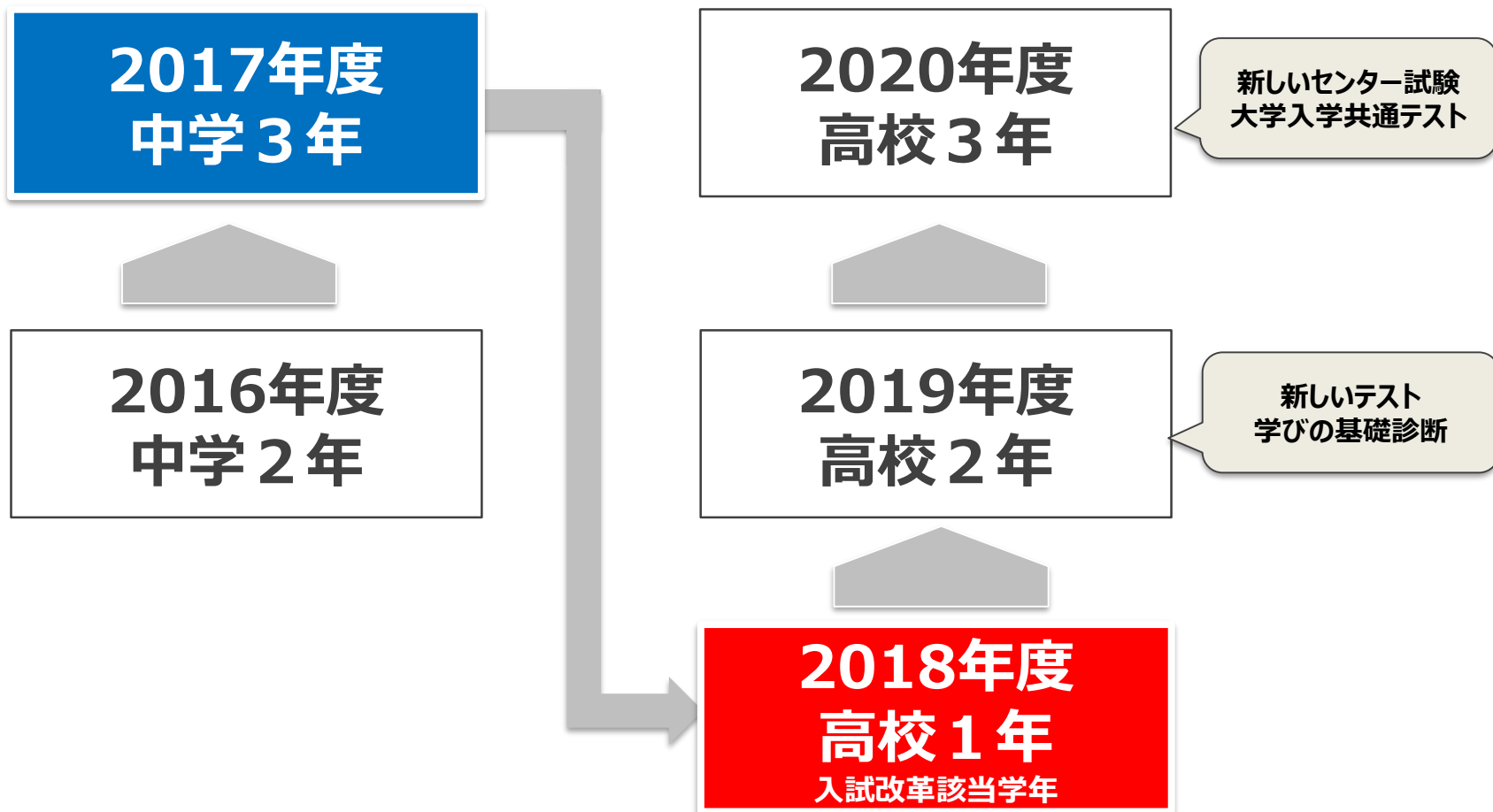
教育改革の整理

教育現場のICT活用トピック

Classi活用事例から見る教育×ICTの可能性



大学側では、3つのポリシーの設定の公表（平成29年4月1日施行）
大学生に不足しているのはスキルを動かす「主体性」がテーマに
高大接続改革では、プロセス評価：行動（能力×意欲）が視野に

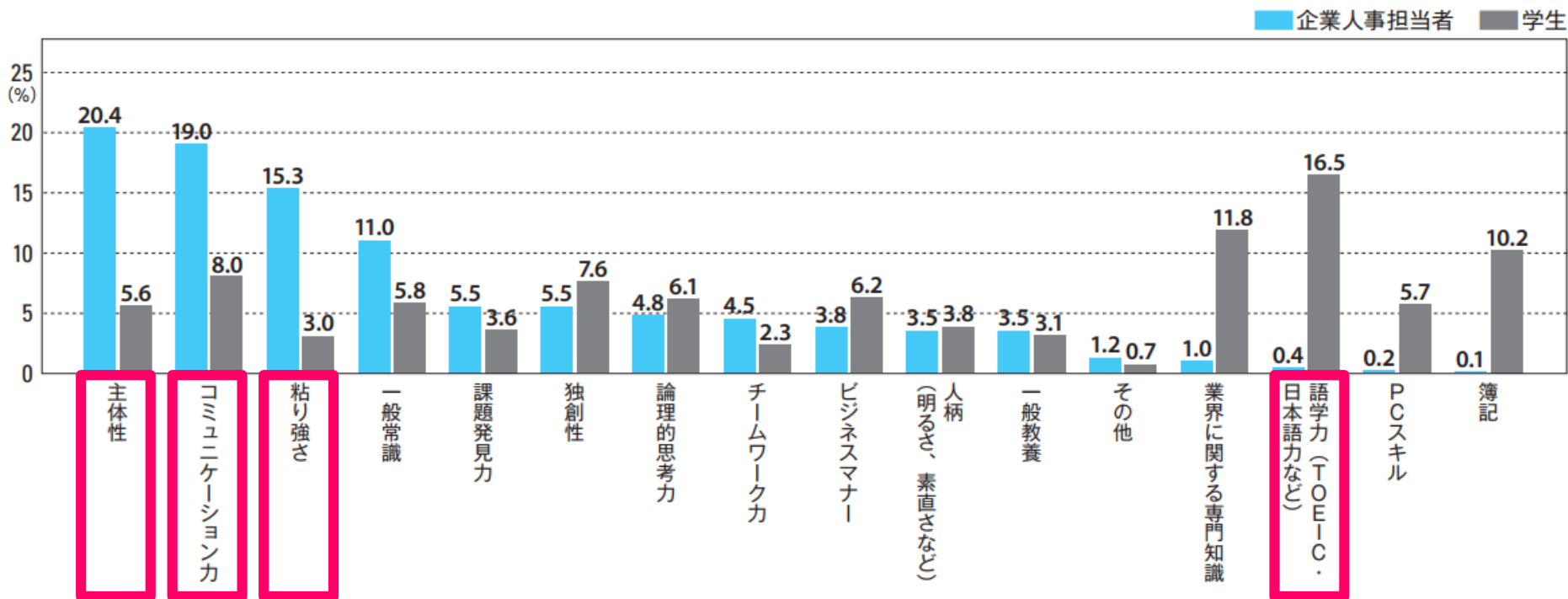


2018年度の高1生の受け入れに向けた2017年度の動きがポイント

名称変更	「一般入試」⇒「一般選抜」	「AO入試」 ⇒「総合型選抜」	「推薦入試」 ⇒「学校推薦型選抜」
内容面での 課題①	<ul style="list-style-type: none"> ①出題科目が1・2科目に限定されている ②記述式がない場合も ③英語4技能を総合的に評価する必要あり 	<p>現行の実施要項「知識技能の習得状況に過度に重点を置いた選抜としない」と記載があるが、一部、事実上の「学力不問」となっている場合がある</p>	<p>現行の実施要項で「原則として学力検査を免除」とあるが、一部、事実上の「学力不問」となっている場合がある</p>
課題①への 改善点	<ul style="list-style-type: none"> ①教科・科目に関わるテストの出題科目の見直し ②国語を中心とした記述式の導入・充実など作問の改善 ③英語4技能評価の導入 <p>※上記①～③は総合型選抜・学校推薦型選抜でも推奨</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・上記実施要項の記載の削除 ・志願者本人の記載する資料（活動報告書、入学希望理由書、学修計画書）等を積極的に活用し、詳細な書類審査と丁寧な面接による評価の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・上記実施要項の記載の削除 ・推薦書の中で学力の3要素の評価を必須化
内容面での 課題②	<p>特に主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度の評価が不十分</p>	<p>特に知識・技能及び思考力・判断力・表現力の評価が不十分</p>	
課題②への 改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・調査書・志願者本人の記載する資料（エッセイ、面接、ディベート、集団討論、プレゼン、各種大会の顕彰の記録、総合的な探究的な学習の成果に関する資料、面談）等の積極的な活用 ・調査書等をどのように活用するかについて、各大学の募集要項に明記 	<ul style="list-style-type: none"> ・調査書等の出願書類だけでなく、各大学が実施する評価方法等（自らの考えに基づき論を立てて記述させる評価方法（小論文等）、プレゼンテーション、口頭試問、実技、教科・科目に関わるテスト、資格・検定試験等の成績など）、又は「大学入学共通テスト（仮称）」のうち、少なくともいづれか一つの活用の必須化 	

文部科学省「高大接続改革の進捗状況について」（2017年5月）をもとに作成

一般・推薦・AOの各入試を見直し、全区分で学力の3要素が適切に評価される

図2 企業が学生に不足していると思う能力要素 学生自身が自分に不足していると思う能力要素


* 出典／経済産業省「大学生の『社会人観』の把握と『社会人基礎力』の認知度向上実証に関する調査」を基にVIEW21大学版編集部で作成
調査対象／企業：全国の企業人事採用担当者1,179人 大学生：全国の大学・修士課程・博士課程の日本人学生1,598人

企業が学生に不足していると思う能力は、「**主体性**」、「**コミュニケーション力**」である。
学生は「業界に関する専門知識」や「**語学力**」が重要だと考えている。
企業と学生で必要だと思う資質・能力の認識にギャップがある

私立大学等改革総合支援事業

- 高等教育全体の質の向上には、大学の約8割を占める私学の改革支援が急務。
- このため、各タイプに対応した改革に全学的・組織的に取り組む大学等に対する支援を強化するため、**経常費・設備費・施設費による一体的支援を実施。**
- 教育の質的転換の取組について重点的に措置するとともに、**高大接続改革に取り組む大学を追加的に支援(タイプ1)。**また、**大学の特色に応じて申請できるタイプ2～4も充実。**
- 対象は、延べ670校程度を想定(各タイプ間の重複採択あり)。
- 3年間の事業実績を踏まえて、設備費を縮減する一方、**経常費増額により採択校を拡充。**

平成28年度予算額(案) 201億円(201億円)

経常費	167億円	(144億円)
活性化設備費	23億円	(46億円)
施設・装置費	11億円	(11億円)

基本スキーム

タイプ2「地域発展」(160校)

地域社会貢献、社会人受入れ、生涯学習機能の強化等を支援

- 自治体との包括連携協定の締結
- 全学的地域連携センターの設置
- 地域社会と連携した地域課題解決のための教育プログラム 等

※三大都市圏(過疎地域は除く)にある収容定員8,000人以上の大学等は対象外。

タイプ3「産業界・他大学等との連携」(80校)

産業界や国内の他大学等と連携した高度な教育研究支援

- 教育面を含む産学連携体制の構築
- 長期インターンシップ
- 交流協定に基づく単位互換の実施・交流実績
- 教育プログラムの共同開発、共同研究、共同FD・SD 等

タイプ4「グローバル化」(80校)

国際環境整備、地域の国際化など、多様なグローバル化を支援

- 実践的な語学教育
- 外国人教員・学生の比率
- 地域のグローバル化への貢献 等

※必須要件 グローバル化対応ポリシーの策定。

タイプ1「教育の質的転換」(350校)

全学的な体制での教育の質的転換(学生の主体的な学修の充実等)を支援

<評価する取組(例)>

- 全学的教学マネジメント体制の構築
- シラバスの改善(主体的な学修を促す教育課程の編成)
- 学生の学習時間等の把握と充実
- 学生による授業評価結果の活用
- 外部組織と連携したproject-Based Learningの実施 等

+

高大接続改革に積極的に取り組む大学等を追加的に支援(新規)

<評価する取組(例)>

- 多面的・総合的な入試への転換
- 高等学校教育と大学教育の連携強化
- アドミッションオフィス等の組織改善
- 追跡調査など選抜方法の妥当性の検証 等

私立大学においても、「多面的・総合的な入試への転換」が支援事業(助成金交付)を受ける一つの条件になっている

調査書や提出書類等の見直しについて【主なポイント】(案)

①調査書

調査書

- 「指導上参考となる諸事項」の見直し
記載欄を拡充し、以下の①～⑥の各項目ごとに記載するよう分割。
①各教科・科目及び総合的な学習の時間の学習における特徴等
②行動の特徴、特技等
③部活動、ボランティア活動、留学・海外経験等
④取得資格・検定 ⑤表彰・顕彰等の記録 ⑥その他
※ 調査書の両面1面の制限を撤廃し、弾力的に記載
- 「調査書記入上の注意事項等について」の見直し
共通の留意事項として、以下の内容の記載を求めるよう変更。
③の部活動、ボランティア活動等の具体的な取組
④の資格・検定の内容、取得スコア、時期
⑤の各種大会やコンクール等の内容や時期等
(その他、国際バカロレア、科学オリンピック、生徒の成長の状況に関わる所見など)
- 大学が指定する特定の分野において特に優れた学習成果を上げたことを調査書の備考欄に記載(例:保健体育、芸術、家庭、情報等)
- 「評定平均値」について、学習成績を全体的に把握する趣旨の明確化や目標に準拠した評価の観点から、適切な名称に変更(「学習成績の状況」)
- 入学者受入れの方針に基づき、調査書や志願者本人の記載する資料等を具体的にどのように活用するのかについて、募集要項等に記載する
〔※ 調査書等の活用にあたり、各高等学校が定める学校運営の方針等に関する情報について、必要に応じ提供を求めることができる〕

推薦書

- 入学希望者の学習や活動の成果を踏まえた「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」に関する評価についての記載を必ず求める。その際、生徒の努力を要する点なども、特に配慮を要するものがあれば記載。

②推薦書

志願者本人の記載する資料等

- 活動報告書の記載内容や様式のイメージの例示
・「総合的な学習の時間」等において取り組んだ課題研究等
・学校の内外で意欲的に取り組んだ活動(部活動、ボランティア活動、生徒会活動、資格・検定、各種大会・コンクール、留学・海外経験等)
- 大学入学希望理由書や学修計画書の内容
各大学が、学部等の教育内容を踏まえ、入学希望理由や学びたい内容・計画、卒業後を見据えた目標等を記載させる。
- 活動報告書、大学入学希望理由書や学修計画書の活用
本人が記載する資料の活用に努める。特に、総合型選抜や学校推薦型選抜において、これらの資料に関するプレゼンテーションなどにより積極的に活用。
- 実技を通じて評価している場合は、必要に応じて、活動報告書等を活用すること
- 入学者受入れの方針に基づき、調査書や志願者本人の記載する資料等を具体的にどのように活用するのかについて、募集要項等に記載する(再掲)

③活動報告書

調査書等の電子化

④eポートフォリオシステムでの出願

- 「大学入学者選抜改革推進委託事業」(平成28年度～)において、高校段階でのeポートフォリオとインターネットによる出願システムが連動したシステムのモデルや主体性等を評価するためのモデルの開発等を行っており、その取組状況も踏まえながら、調査書等の電子化の在り方について検討。

* 文部科学省「高大接続改革の進捗状況について」(2017年5月)より

調査書の両面1枚制限を撤廃し、「指導上参考となる諸事項」の記載欄を拡充する。
推薦書には学力の3要素についての記載を必須とすることを検討。調査書の電子化のあり方についても検討。

現在

現行の調査書																	
(表)																	
5. 出欠の記録																	
区分	学年				1	2	3	4	区分	学年				1	2	3	4
授業日数									欠席日数								
出席停止・遅引き等の日数									出席日数								
留学中の授業日数									備考								
出席しなければならぬ日数																	
6. 特別活動の記録	第1学年				第2学年				第3学年				第4学年				
7. 指導上参考となる諸事項	(1) 学習における特徴等				(3) 部活動、ボランティア活動等				(5) その他								
	(2) 行動の特徴、特技等				(4) 取得資格、検定等												
	第1学年																
	第2学年																
	第3学年																
第4学年																	
8. 活動の内容・評価	活動内容				評価												
9. 備考																	
この調査書の記載事項に誤りがないことを証明する。																	
平成 年 月 日																	
学校名																	
所在地																	
校長名																	
記帳責任者氏名																	

改正案

(裏)															
5. 総合的な学習の時間の内容・評価															
指導要録に合わせて、5、8、9の項目の順番を入れ替え。															
6. 特別活動の記録															
第1学年															
6項目での記載															
(1) 学習における特徴等				(2) 行動の特徴、特技等				(3) 部活動、ボランティア活動、留学・海外経験等				(注) 長期的な取組内容、期間等			
(4) 取得資格、検定等				(5) 表彰・顕彰等の記録				(6) その他				(注) 生徒が自ら関わった活動など			
(注) 専門高校の校長会や民間事業者等が実施する資格・検定の内容、取得スコア、取得時期等				(注) 各種大会やコンクール等の内容や時期、科学オリンピック等における成績、検閲				国際バカロリアなど国際通用性のある大学入学資格試験における成績・時期等							
(注)「調査書記入上の注意事項等について」において、共通の留意事項として記載。															
(1) 学習における特徴等				(2) 行動の特徴、特技等				(3) 部活動、ボランティア活動、留学・海外経験等							
(4) 取得資格、検定等				(5) 表彰・顕彰等の記録				(6) その他							
(1) 学習における特徴等				(2) 行動の特徴、特技等				(3) 部活動、ボランティア活動、留学・海外経験等							
(4) 取得資格、検定等				(5) 表彰・顕彰等の記録				(6) その他							
(1) 学習における特徴等				(2) 行動の特徴、特技等				(3) 部活動、ボランティア活動、留学・海外経験等							
(4) 取得資格、検定等				(5) 表彰・顕彰等の記録				(6) その他							

時系列での記載

来年度の高校1年生から大学入試・調査書の形態が変わる

・調査書の様式について、裏表の両面1枚となっているが、この制限を撤廃し、弾力的に記載できるようにする。

・大学が指定する特定の分野（例：保健体育、芸術、家庭、情報等）において、特に優れた学習成果を上げたことを記載させることができる。

調査書の様式について、表裏の両面1枚となっているが、この制限を撤廃し、弾力的に記載できるようにする。

9. 出欠の記録

区分	学年				区分	学年			
	1	2	3	4		1	2	3	4
授業日数					欠席日数				
出席停止・忌引き等の日数					出席日数				
留学中の授業日数					備考				
出席しなければならない日数									

この調査書の記載事項に誤りがないことを証明する。

平成 年 月 日

学校名

所在地

校長名



記載責任者職名



資料2-1

受験番号	※
------	---

※欄は必ず記入しないでください。

学業等評価書(案)

○評価者情報			
学校名			
電話番号			
作成者	職名		
	氏名		印

○志願者情報			
志望学部	志望学科	志望専攻・コース	志願者氏名

【1】学業の評価

1. 志願者の高校での学業における評価や、特記すべき事項を記入してください。
2. 「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の観点から記入してください。

--

【2】主体性をもって多様な人々と協働して活動した記録を具体的に書いてください。

--

- 【3】志願者の高校での学業以外における評価や、志望学部のアドミッションポリシーからみて、志願者に際して特記すべき事項があれば記入してください。
また、その他、選抜にあたって有用と思われる事項があれば、記入してください。

--

志願者の高校での学業以外における評価、志望学部のアドミッションポリシーからみて、志願者に関して特記すべき事項があれば記入してください。

○欄外には記入しないでください。
○PCで作成する場合は、A4両面印刷で輸出してください。

活動報告書のイメージ例

氏名 ()

(1) 学業に関する活動	
① 学内での活動内容	活動期間 ()
※「総合的な学習の時間」、部活動、生徒会活動等において取り組んだ課題研究等	
<p>学内での活動 総合学習・部活・生徒会 を通じた課題研究</p>	
② 学外での活動内容	活動期間 ()
※ボランティア活動、各種大会・コンクール、留学・海外経験等	
<p>学外での活動 ボランティア・各種大会・留学等</p>	

* 文部科学省「高大接続改革の実施方針等の策定について(平成29年7月13日)

(2) 課題研究等に関する活動
① (課題テーマを選んだ理由)
<p>課題研究の背景 <u>テーマ設定時の記録の必要性</u></p>
② (概要・成果)

※平成28年度京都大学特別入試「学びの報告書(教育学部用)」から抜粋

【1】 中学時代から現在までに取り組んだ「学び」の活動（各教科での学習や総合的な学習の時間、読書、課外活動、学校行事での活動、ボランティア活動等）のうち、主なものを時間の経過に沿って記述してください。

(1) 「時期」欄には活動を行った時期（西暦で○年○月、○年○月～○年○月など）を記入してください。

(2) 「活動内容」欄には活動の名称と簡単な説明を書いてください。その際、その成果を示す資料を添付してください。

(3) 「資料番号」欄には対応する資料の番号を記入してください。

※取得した資格や各種の検定については、上記とは分けて【2】の欄に記載してください。

時 期	活 動 内 容	資料番号
	<div style="border: 2px solid red; padding: 5px; display: inline-block;"> 中学時代から現在までの「学びの活動」 </div>	

フリーアンサーより抜粋

※教育・入試改革対応に関するアンケートより

■ 調査書に対する「教員の業務負荷課題」

- 入試の多様化は良い方向性だと思うが、教員の指導や書類作成、生徒の取り組みが多様化すると、その取りまとめなど大変ではないかと思う。また、[調査書などに記載忘れがあったりして生徒の合否が分かれてしまう](#)ことになると、責任が重大になっていく。

■ 生徒情報の蓄積に向けての「指導課題」

- 推薦・AO入試・就職指導に向けて生徒に紙でアンケートを取らせるが、直近の事以外は生徒も忘れてしまっており、薄い内容しか返ってこない。
- [担任交代のタイミングで生徒情報引き継ぎ](#)（引き継ぎはネガティブな情報が多い）

■ 「生徒情報」の分散

- 進路指導部が持っている進路に関する模試データと、英語科が持っている外部検定試験の成績や、部活動の顧問が知っている生徒の成長なども校内で分散しているために一元化の検討が必要

生徒情報の一元管理への対応が必要 → 仕組みとしてのeポートフォリオ

業務効率化による指導時間の創出

生徒へのアンケート（授業評価等）を、自動集計→CSV出力
エクセルに向いあう時間を「先生しかできないこと」をする時間へ



①先生が配信

アンケート作成

タイトル

必須 カテゴリ

必須 学年

教科

設問1

形式

設問文

選択肢

-
-
-
-
-
-



②生徒が回答

個人別 / 設問別

倉石 花子

設問1

形式

設問文

回答

- よくできた
- まあまあできた
- あまりできなかった
- できなかった

設問2

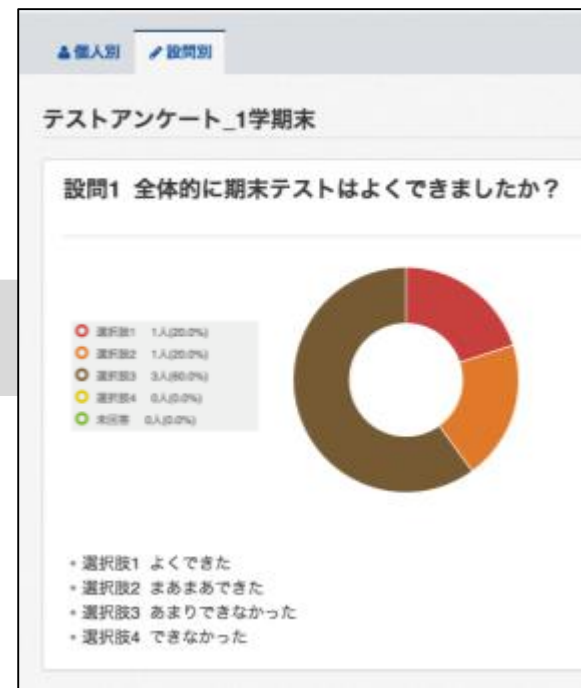
形式

設問文

回答



③自動で集計



科目選択調査／授業評価／講演会感想／活動振り返り等 各種フォーマット上記対応可能

教育改革の整理

教育現場のICT活用トピック

Classi活用事例から見る教育×ICTの可能性

「どのように指導改善するか」+「教育環境をどのように整備するか」

<環境面>

スマートフォン利用の検討

教員業務負荷の削減

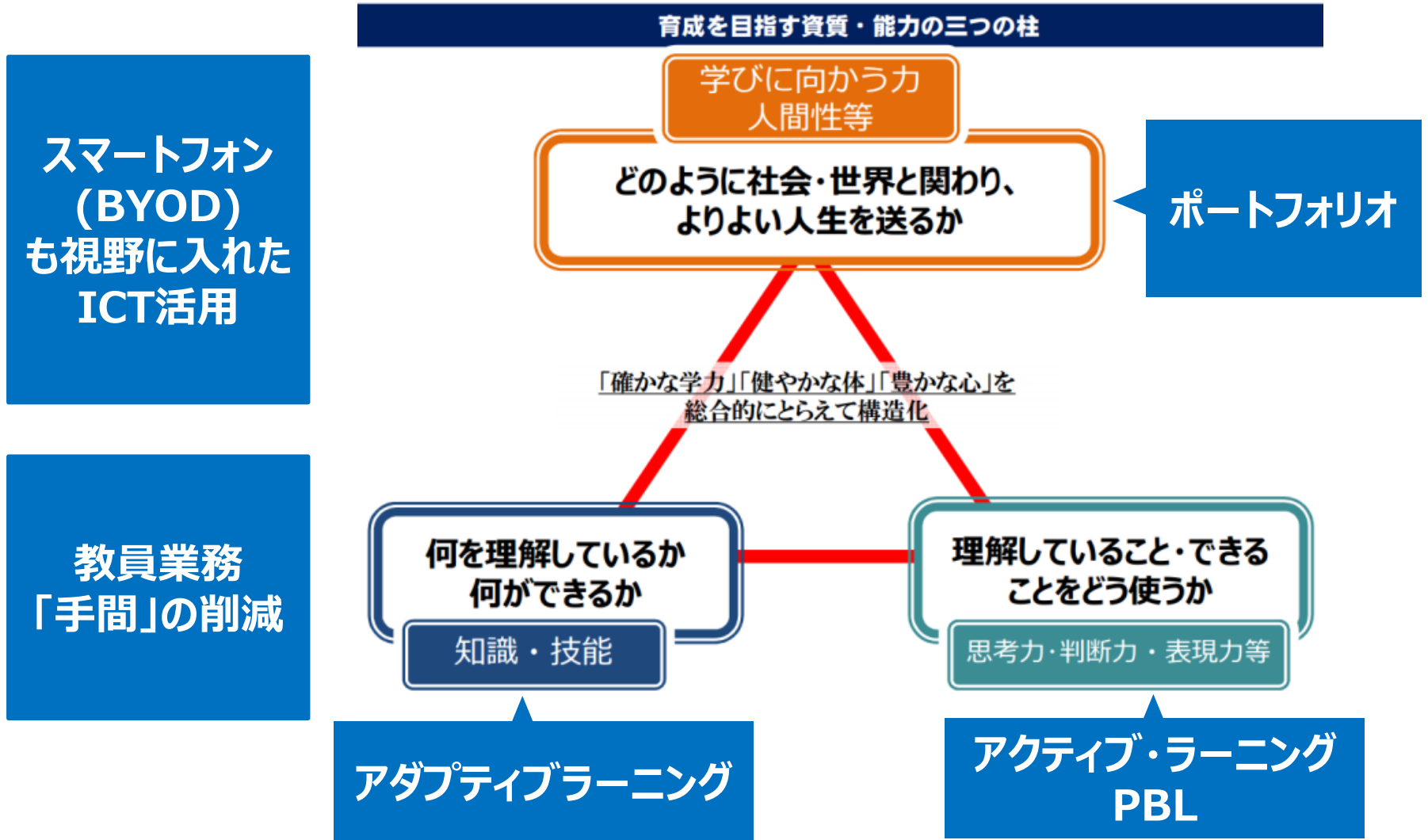
<活用と効果>

アダプティブラーニング

アクティブ・ラーニング
PBL

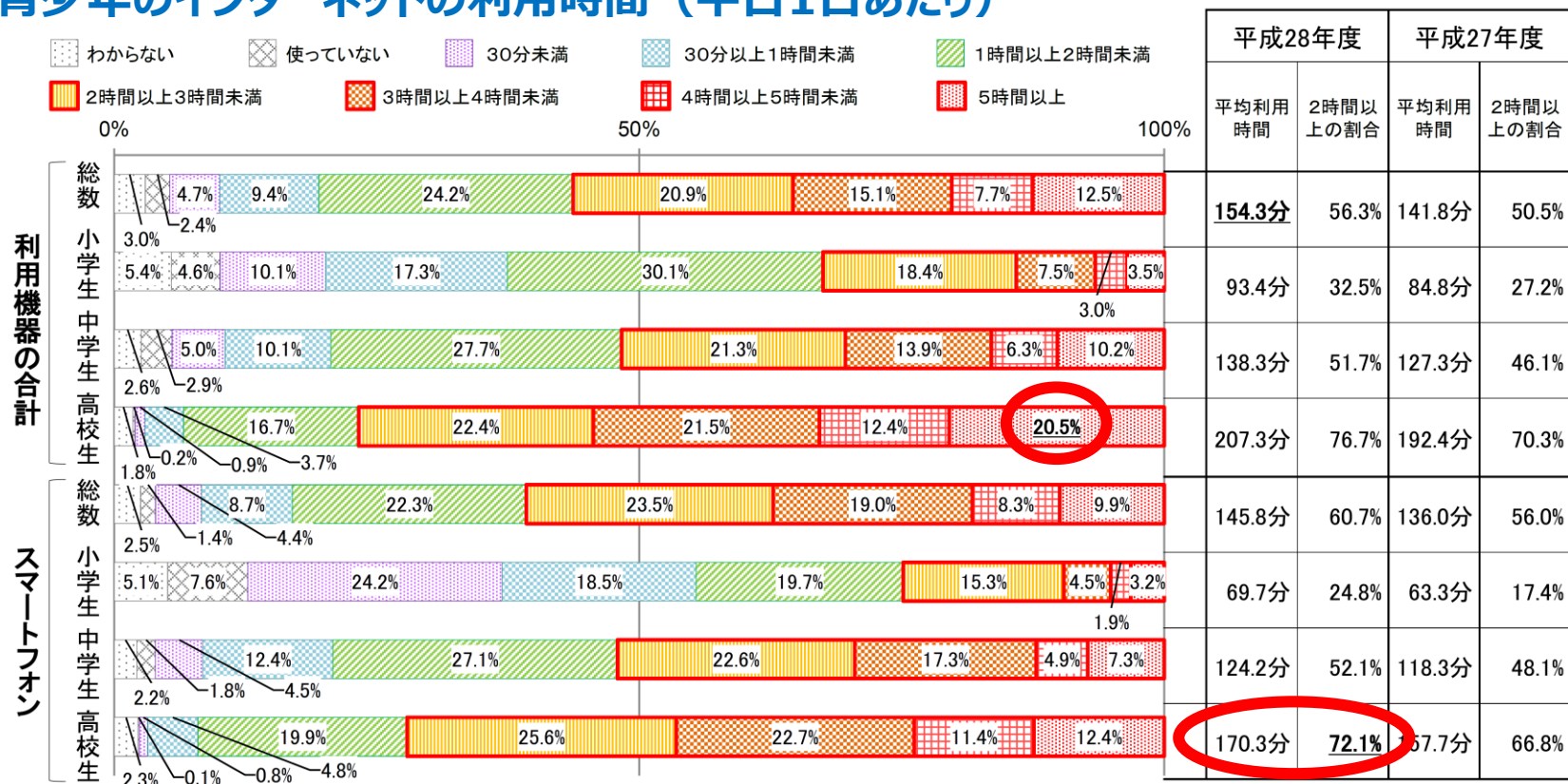
ポートフォリオ

●学力の3要素につながるICT活用



* 図版：文部科学省／中央教育審議会
「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」より

● 青少年のインターネットの利用時間（平日1日あたり）

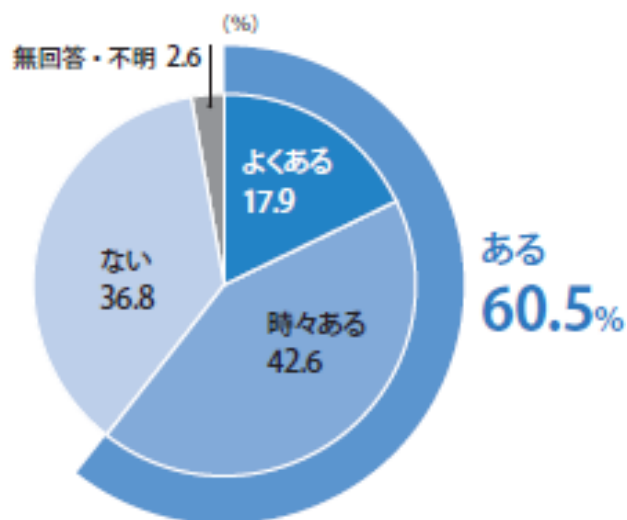


高校生のスマートフォン利用時間は約3時間

高校生の20.5%が、5時間以上インターネットを利用
 高校生の72.1%が、スマートフォンを2時間以上を利用

あなたは、パソコンやスマートフォン、タブレットなどを使って勉強することができますか（学校の授業での利用は含めません）。

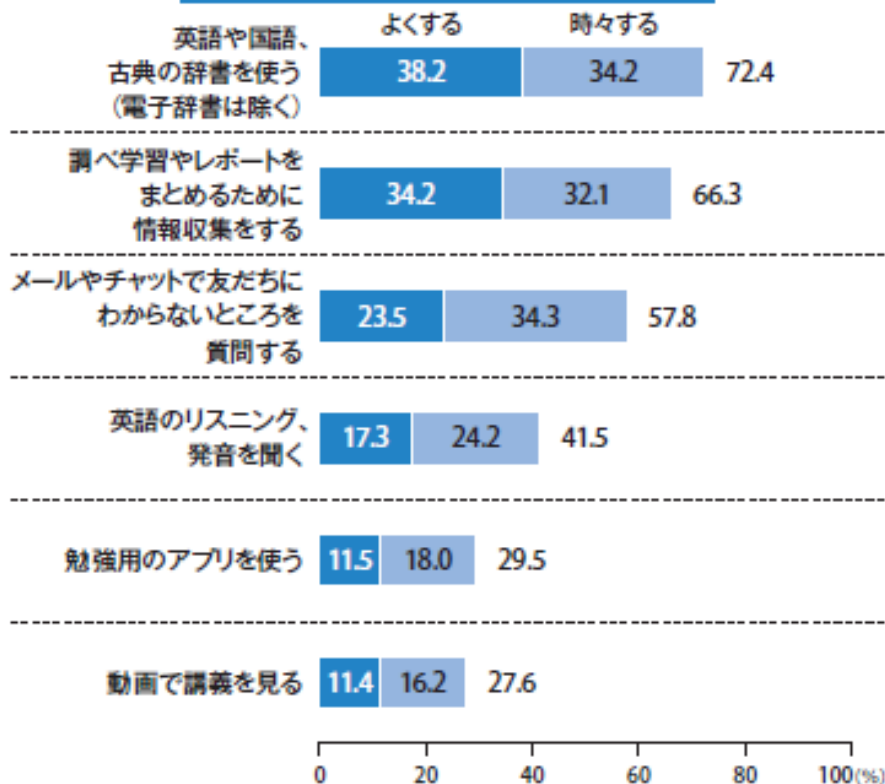
高校生



* ベネッセコーポレーション調べ（調査期間 2014年2月～3月）

あなたは、パソコンやスマートフォン、タブレットなどを使って次のようなことをしますか。
※「よくある」「時々ある」の回答者のみ

高校生



学習利用もさまざまな形で進んでいる

3 ICTを活用した指導方法の開発

〈学習場面ごとのICT活用を類型化し、そのポイント及び実践事例を掲載〉

A 一斉学習

挿絵や写真等を拡大・縮小、画面への書き込み等を活用して分かりやすく説明することにより、子供たちの興味・関心を高めることが可能となる。

A1 教員による教材の提示



画像の拡大提示や書き込み、音声、動画などの活用

B 個別学習

デジタル教材などの活用により、自らの疑問について深く調べることや、自分に合った進度で学習することが容易となる。また、一人一人の学習履歴を把握することにより、個々の理解や関心の程度に応じた学びを構築することが可能となる。

B1 個に応じる学習



一人一人の習熟の程度等に応じた学習

B2 調査活動



インターネットを用いた情報収集、写真や動画等による記録

B3 思考を深める学習



シミュレーションなどのデジタル教材を用いた思考を深める学習

B4 表現・制作



マルチメディアを用いた資料、作品の制作

B5 家庭学習



情報端末の持ち帰りによる家庭学習

C 協働学習

タブレットPCや電子黒板等を活用し、教室内の授業や他地域・海外の学校との交流学习において子供同士による意見交換、発表などお互いを高めあう学びを通じて、思考力、判断力、表現力などを育成することが可能となる。

C1 発表や話し合い



グループや学級全体での発表・話し合い

C2 協働での意見整理



複数の意見・考えを議論して整理

C3 協働制作




グループでの分担、協働による作品の制作

C4 学校の壁を越えた学習



遠隔地や海外の学校等との交流授業

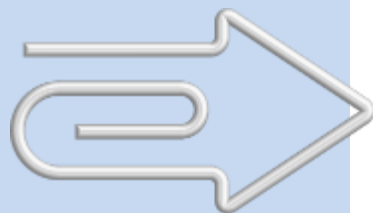


導入ハードル	活用例	活用場面	活用機器
高 授業活用	教科授業内での 双方向型の授業 プロジェクト学習	授業中の活用	全校 タブレット導入 スマートフォン授業 活用
中 学力向上	1人1人のレベル にあった学習の 提供	授業外での 校内活用	スマートフォンの活 用・自宅PC PC教室開放
低 ポートフォリオ	eポートフォリオ 振り返り指導	自宅での活用	スマートフォンの活 用・自宅PC PC教室開放

「活用例」「活用場面」「活用機器」の3つの観点で校内状況を整理する
「eポートフォリオ」に向けた生徒の成長プロセスの蓄積観点はより重要になると考えられる

お困りごと

- ・通信環境が整備されていない
- ・生徒スマートフォンの通信制限
- ・校内での生徒のスマートフォン利用
- ・スマートフォンを持っていない生徒への対応



学校の工夫

- ・WebドリルやWebテストを中心に活用
- ・放課後PC教室の開放
- ・スマートフォンを持っていない生徒へは紙で打ち出す
- ・タブレット、PCの貸し出し
- ・スマートフォン利用に関する保護者への丁寧な説明



ICT環境に左右されない活用をする

教育改革の整理

教育現場のICT活用トピック

Classi活用事例から見る教育×ICTの可能性

ICT導入の目的	活用例	活用場面	活用機器
授業活用	教科授業内での 双方向型の授業 プロジェクト学習	先生が授業内で	タブレット導入 スマートフォン授業活用
学力向上	1人1人のレベルに あった学習の提供	生徒が家庭学習で 先生が補習などで	スマートフォンの活用 自宅PC PC教室開放
ポートフォリオ	eポートフォリオ作成 コミュニケーション強化	生徒が学校内・外で 先生が振り返り指導で	スマートフォンの活用 自宅PC PC教室開放

働き方改革



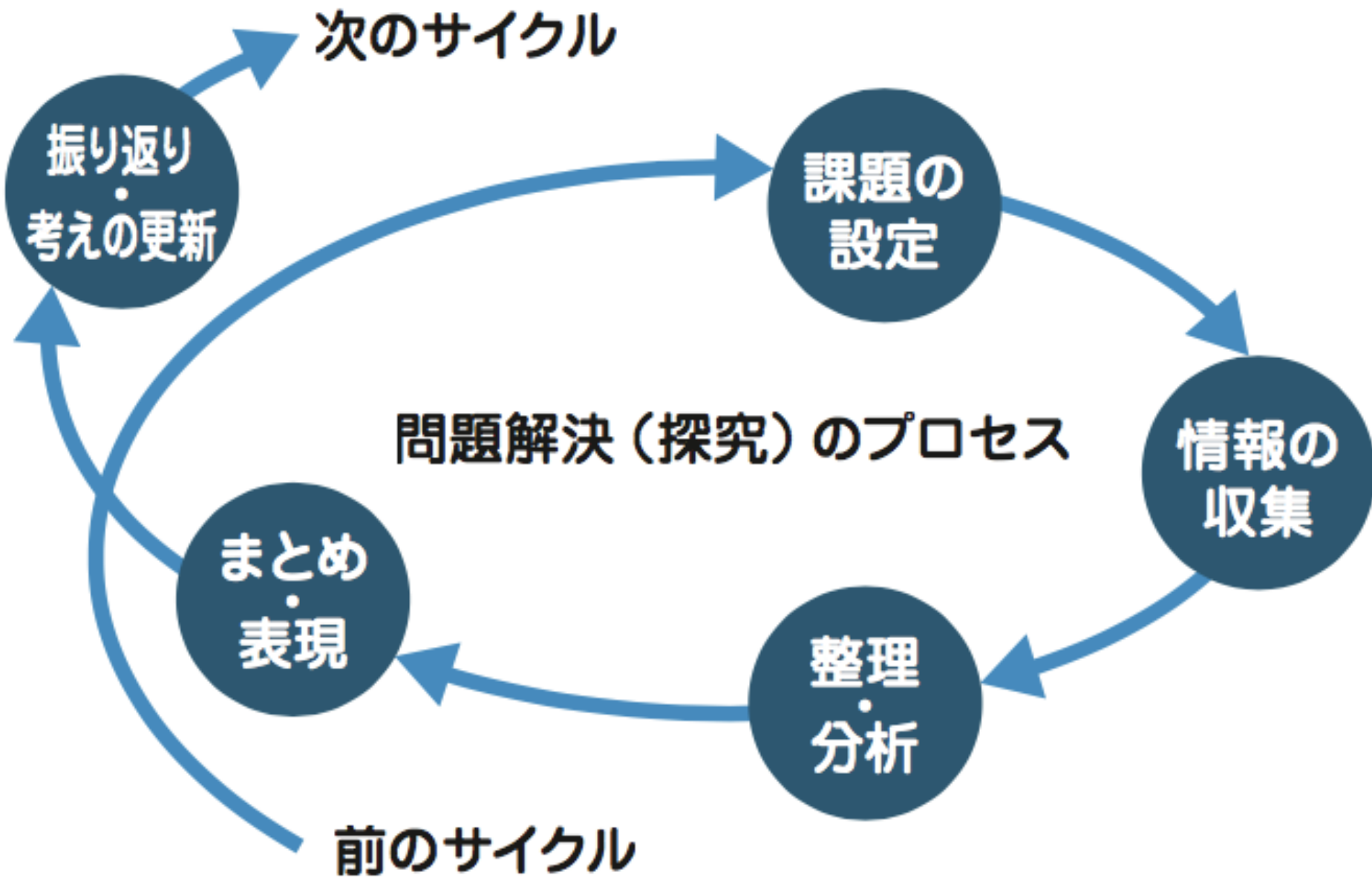
課題をスマホで

朝起きたら必ずスマホ机に向かって勉強する気にはならないけど、スマホならやる気になる



授業をスマホで

「クラスの正答率が見えるからやる気になる」
「国語の授業でクラスの42人全員の意見が見える」



●外部連携×活動の見える化



The image displays a screenshot of a school group interface. On the left, a sidebar shows group management options like 'フォルダ作成' (Folder creation), 'グループ作成' (Group creation), and '編集' (Edit). The main content area is titled '校内グループ' (School Group) and features a '選択済のメンバー' (Selected Members) list. The list includes '先生 (高等学校)' (Teacher, High School), '先生 (高等学校)' (Teacher, High School), and '大学生3先生 (高等学校)' (3 University Students, High School), with the latter highlighted in a red box. Below the list are '高校1年生1組' (High School 1st Year Group 1) and '高校1年生2組' (High School 1st Year Group 2).

On the right, a post from the '校内グループ' shows a handwritten note on a whiteboard. The note is a flowchart titled '大学受験' (University Entrance) with branches for '高校' (High School) and '入学' (Enrollment). It includes text such as '不学合格のための勉強' (Study for university qualification), '自分の将来を見据える勉強' (Study to see one's future), and '自分のしたいことが他校にない' (The things I want to do are not in other schools). A box labeled 'ヨーロッパ' (Europe) contains the text '自分のしたいことが他校にない' (The things I want to do are not in other schools). The flowchart ends with '大学卒業' (University Graduation) and a drawing of a person.

Below the note, there is a post from a member dated 2016/10/01 13:02, which says 'メンバーで議論したものをまとめてみました' (I've summarized what we discussed with members) and includes a photo of several books. The post has 10 likes and 2 shares.

▲校内グループ内に外部講師を登録・連絡が取れる環境を作る

▲通常の学習内容をICT上で見える化・履歴化して活動させている

杜若高等学校

- 市役所と連携し、ICTを利用したプロジェクト学習「バーチャル市役所」の実践
- プロジェクト学習のレポートを貯めていくポートフォリオ化の実践

●市役所と連携した「バーチャル市役所」の実践

- ・生徒が仮想市役所職員となり、市が抱える課題に対し、グループで解決法を提案
- ・市役所10課の協力⇒Classi上の校内グループに職員も外部講師として入って外部連携を実施

件名

平成 29 年度杜若高等学校総合コース 探究学習
「バーチャル市役所」オリエンテーション
— 次期学習指導要領を見据えて —

【内容】

2020年に始まる大学入試改革と並行して改定される次期学習指導要領では、大きな教育の転換が感じられる。教育目標が「知識・技能の習得」重視から「複雑な課題解決能力の育成」へとシフトし、そのために必要な言語活動のスキルや態度を身につけることが重要と考えられる。言語活動のスキルとは「思考力・判断力・表現力」という、熟考して評価し、表現する一連のプロセスに必要な力。そして、態度とは「主体的で対話的な深い学び」という、自ら学ぶ姿勢や人と協働する姿勢のことである。今後はこれらの力を育むための学習活動が必要になると本校では考えている。

具体的には、国語科では文章やデータ、資料などいくつかの資料を組み合わせて読み解き、自分の考えを根拠をもとに述べたりしながら、思考力や論述・議論のためのスキルを育まなくてはならない。社会科でも今までは知識の体系的な理解を中心としてきたが、今後はテーマ学習をして関連する知識を覚える、あるいは自分で調べて知識を獲得するなど、知識は構成的に学びながら、現代的な諸課題の考察や課題解決的な授業の展開が必要となる。

こうした「課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現」の一連の学習スタイルは「探究学習」と呼ばれているが、そのモデル例として、本校総合コースでは今年度、第1学年51名の生徒を対象に、豊田市役所の協力を得て「バーチャル市役所」を9月～12月の期間で実施する。生徒は豊田市役所各課職員として任命され、現在豊田市が抱える様々な課題に対し、高校生の視点からの解決法を探っていく。資料集め、市職員とのヒアリングを通して考察を深め、最後は市職員の前でのプレゼンテーションを行う予定である。

なお、「総合的な学習の時間」「現代社会」の時間でバーチャル市役所を展開するが、2年前から開始しているICT学習（生徒一人ひとりがタブレット端末）も活用して行く予定である

バーチャル市役所 任命式を終えて

設問1 プレインストーミングをやってみてどうでしたか。（結果を撮って添付してください。）

回答数27



- 選択肢1 15人(28.8%)
- 選択肢2 8人(15.4%)
- 選択肢3 3人(5.8%)
- 選択肢4 1人(1.9%)

- 選択肢1 楽しかった
- 選択肢2 やや楽しかった
- 選択肢3 まあまあだった
- 選択肢4 あまり楽しくなかった
- 選択肢5 楽しくなかった

設問4 その他、気になることがあれば、書いてください。

回答数12

- バーチャル市役所を進めて、今年中に授業はやるべき所まで終わるのか、今なんとか思いました。
- デートD.Vになるくらいなら付き合えなければいいとおもった
- 僕はエコフルタウンで、岡崎に住んでいることもあって一度も言ったことがないので心配になりました
- 頑張ろうと思った。
- エコフルタウンについて、もっと多くの人に知って欲しいと思った。
- これからもよろしくお願ひいたします
- 交流館に高校生を集めるのはきつい気がした



普段の教科指導で前向きにならない生徒達が、
課題研究では目の色を変えて議論に参加するようになり、探究学習・アクティブラーニングの価値を実感しました。
「探究学習の奇跡」と呼んでいます。

●「広島創生イノベーションスクール」でのICT活用（広島県教育委員会資料）

広島創生イノベーションスクール

Partnership for Youth (P4Y); Shaping Vision 2030 for Community Revitalization and Sustainability



【概要】

広島創生イノベーションスクールは、広島、フィリピン・セブ、ハワイ、アメリカ本土、ニュージーランド、インドネシアの高校生たちが協働して、地域再生と持続可能な社会の構築に向けた2030年の将来ビジョンを描く「国際協働型プロジェクト学習」に取り組むものであり、OECD及びISNの支援を受け、広島県教育委員会がハワイのイーストウェストセンターと連携してプログラムを開発している。

【活動内容】

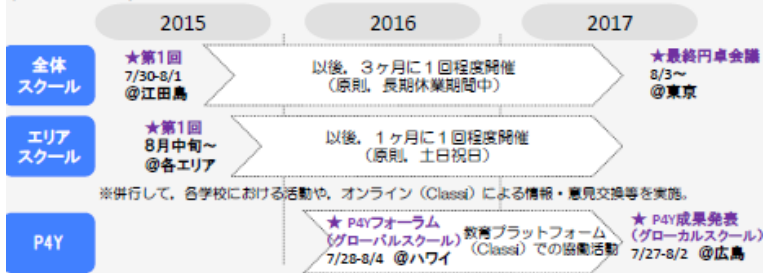
▶ 全体スクール / エリアスクール

広島の高中生たちが、県内外の企業、NPO、大学等の関係者と協働して、広島の魅力・問題の発見、課題設定、解決策の創造、実行までを目指したプロジェクト学習を行う。

▶ Partnership for Youth(P4Y); Shaping Vision 2030

広島の高中生たちが、海外の高中生たちと協働して、環境問題・気候変動・急速な科学技術の発展・経済のグローバル化・人口問題をはじめとする地球規模の課題について考えるとともに、2030年における地域社会・国際社会の在るべき「ビジョン」を描き、その実現に向けて自分たちが今後どのように生き、行動し、働いていくのか、自身の「アクションプラン」を策定する。

【スケジュール】



【「リアル」と「オンライン」の「ハイブリッド展開」】

実社会における協働活動は、対面での「リアル」な活動と、ICTを活用した「オンライン」での活動の双方で行われる。また、生徒たちが協働活動を行う上で必要なコンピテンシーには、「リアル」な活動と「オンライン」での活動で、共通する部分と異なる部分があると考えられる。

広島創生イノベーションスクールでは、「リアル」な協働活動(全体スクール・エリアスクール・P4Yフォーラム等)と、「オンライン」での協働活動(教育プラットフォームClassiを活用)をハイブリッド展開することにより、より実社会に即したコンピテンシーの育成を目指す。

詳しくは「広島創生イノベーションスクール」で検索！

教育プラットフォームClassiを用いた 広島クラスターの活動



校内グループ機能を用いて、生徒を含む関係者のコミュニケーションを密にする

コミュニケーション



他者との共有の場で活動報告や簡易リフレクションを行うことで、生徒のメタ認知を助ける



コンテンツボックス機能を用いて3年間の成果物の共有、蓄積を

活動履歴の記録/蓄積



長期間の活動になるため、定期的に成果物を共有。活動の履歴を蓄積を



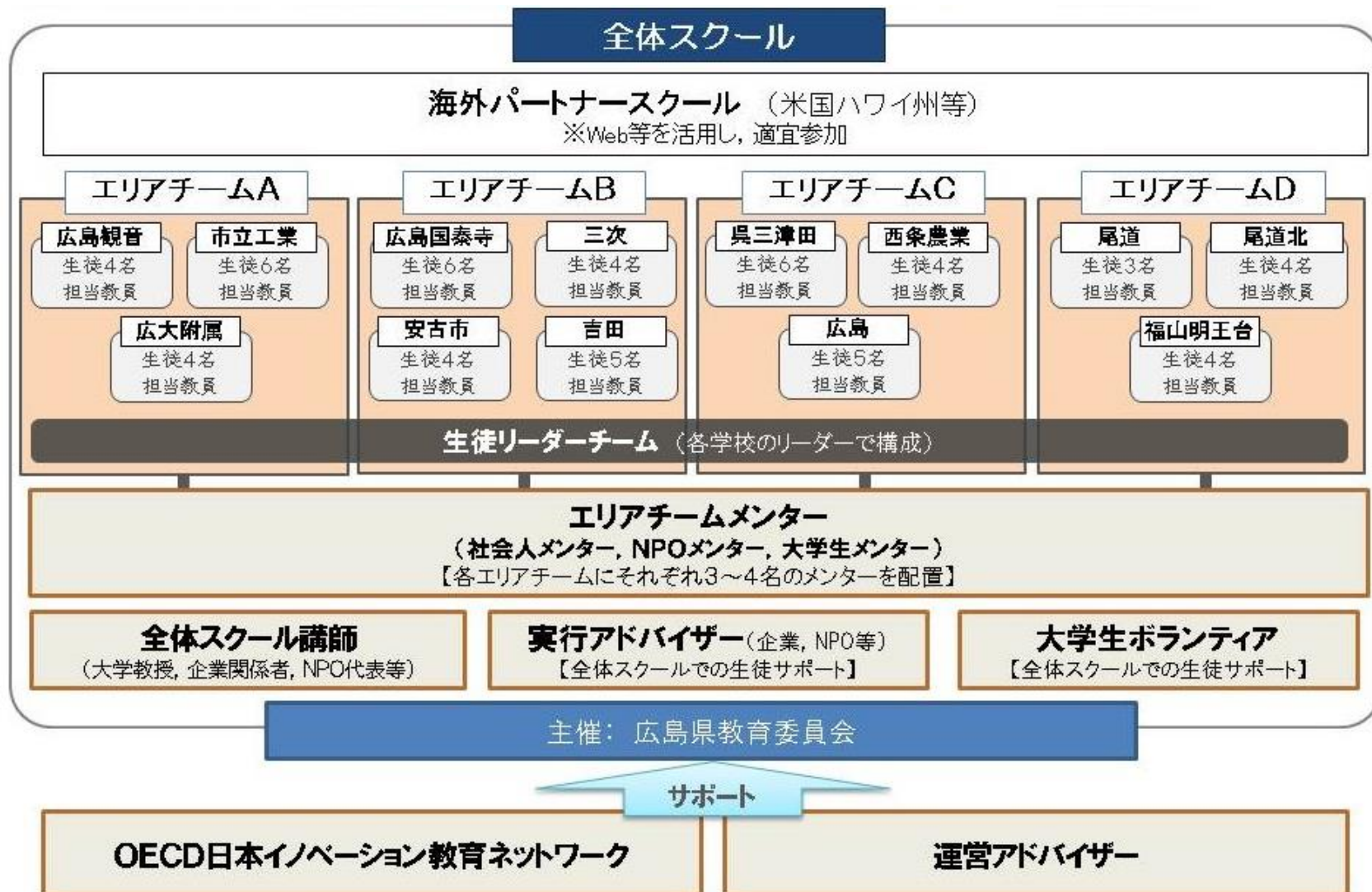
アンケート機能を用いて、リフレクションを行い振り返りを行う

振り返りリフレクション



活動記録や振り返りを行い生徒の活動の質を高める

● 広島創生イノベーションスクールでのICT活用（広島県教育委員会資料）



● 広島創生イノベーションスクールでのICT活用（広島県教育委員会資料）

**チームC／リフレクション**
先生：42人 / 生徒：15人

学校を跨いだコミュニケーションでの気づき



2015/12/21 15:59

今回のエリアスクールでは今までに比べて議論もスムーズに進み、役割分担もうまくできていたと思います。
僕は今まで一人でやったほうが早く進むことのほうが多いと思っていましたが、うまく連携が取れば協力したほうがスムーズに進むのだということを実感しました。
これからはもっとうまく連携を取りながら取り組んでいきたいと思いました。

 いいね! 10人がいいね!と言っています。  投稿を編集



...

2015/12/21 16:23

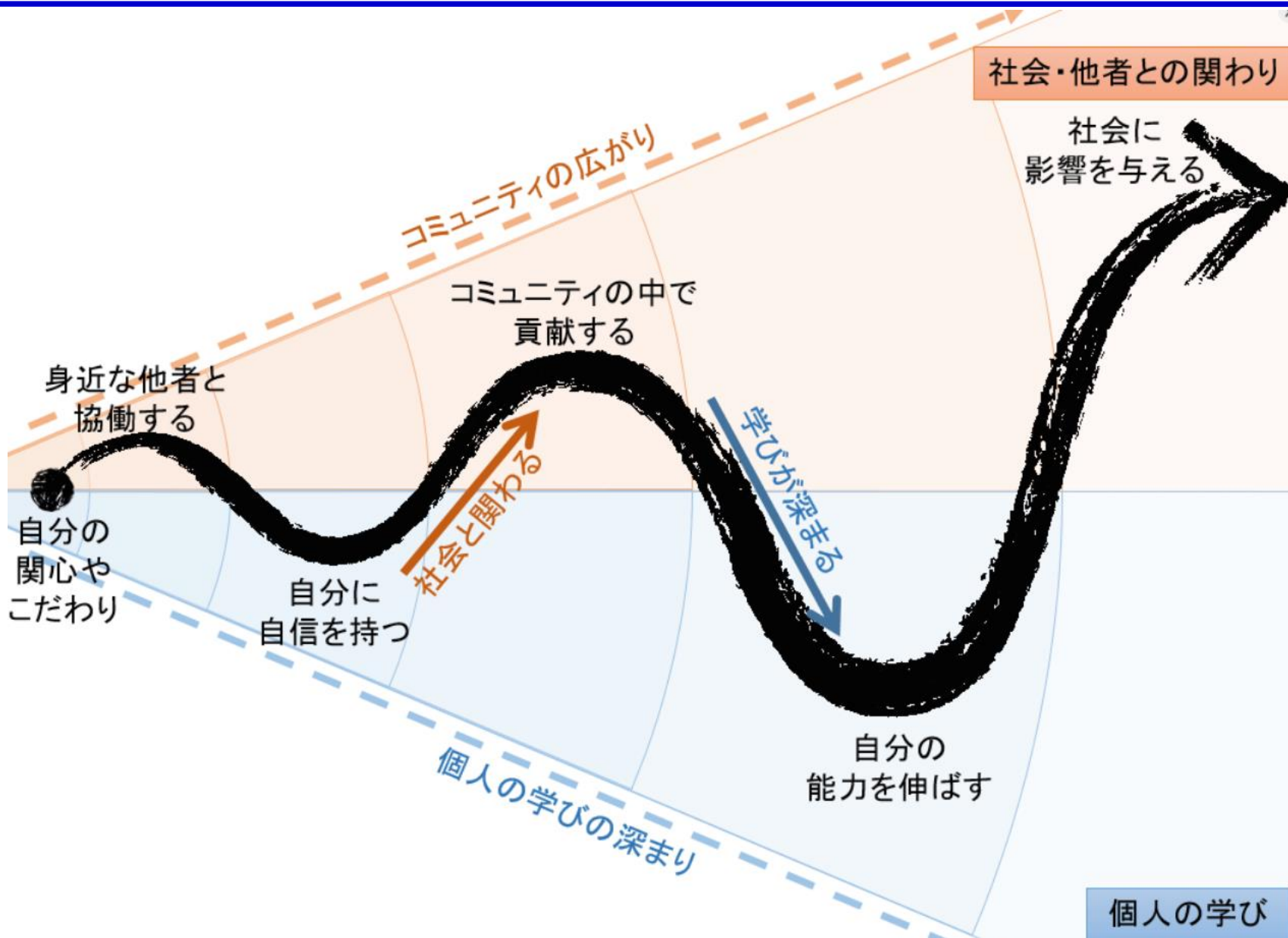
今回のエリアスクールでは限られた時間のなかでみんなの意見を取り入れながら一つのものを作ることの大変さと、面白さを知りました。
一つの方向性が決まれば、みんな積極的に自ら考え、他の人の意見も聞いてみようという気生まれることがわかりました。また、意見がたくさん出るときだからこそ、reflectionを大切に
して結論を出していきたいと思いました。

 いいね! 11人がいいね!と言っています。  投稿を編集



2015/12/21 16:30

エリアスクールを終えて
今回のエリアスクールでは、改めてグループワークの有用性を実感しました。プレゼンテーションをどのように組み立てていくのか、今日が最後のエリアスクールなのに大丈夫なのかという不安もありましたが、各パートでグループに分かれて活動することでスムーズに議論が



働き方改革

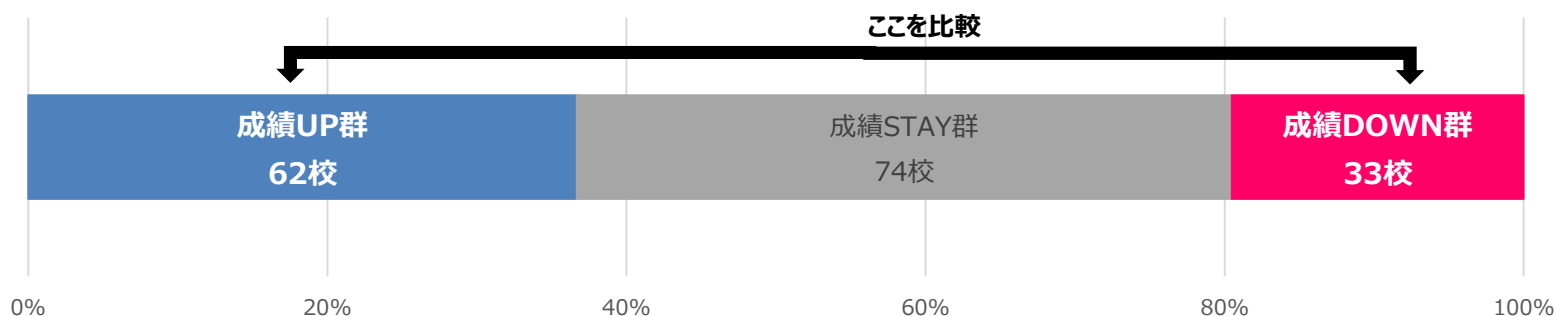
ICT導入の目的	活用例	活用場面	活用機器
授業活用	教科授業内での 双方向型の授業 プロジェクト学習	先生が授業内で	タブレット導入 スマートフォン授業活用
学力向上	1人1人のレベルに あった学習の提供	生徒が家庭学習で 先生が補習などで	スマートフォンの活用 自宅PC PC教室開放
ポートフォリオ	eポートフォリオ作成 コミュニケーション強化	生徒が学校内・外で 先生が振り返り指導で	スマートフォンの活用 自宅PC PC教室開放

ICT教材を活用した、成績上昇に繋がる効果的な活用とは？

- 観点1 「ICT教材を活用した学習習慣作り」と成績変動
- 観点2 「ICT教材を活用した先生方の構い度」と成績変動
- 観点3 「ICT教材で動画を見る量」と成績変動
- 観点4 「ICT教材で問題演習をする量」と成績変動

分析対象	対象校	以下3教材をご活用頂いた、全国の高等学校169校。 <ul style="list-style-type: none"> ・進研模試1年生7月（2016年度） ・進研模試2年生7月（2017年度） ・Classi ※2回の模試で、受験者数の変動が±50%だった学校のみを対象。
	学年	2016年度入学生（2017年度高校2年生）

手法 上記の分析母集団を、成績変動を元に3つに分け、Classiの活用方法をログ分析から明らかにする。
 (①成績UP群②成績STAY群③成績DOWN群)

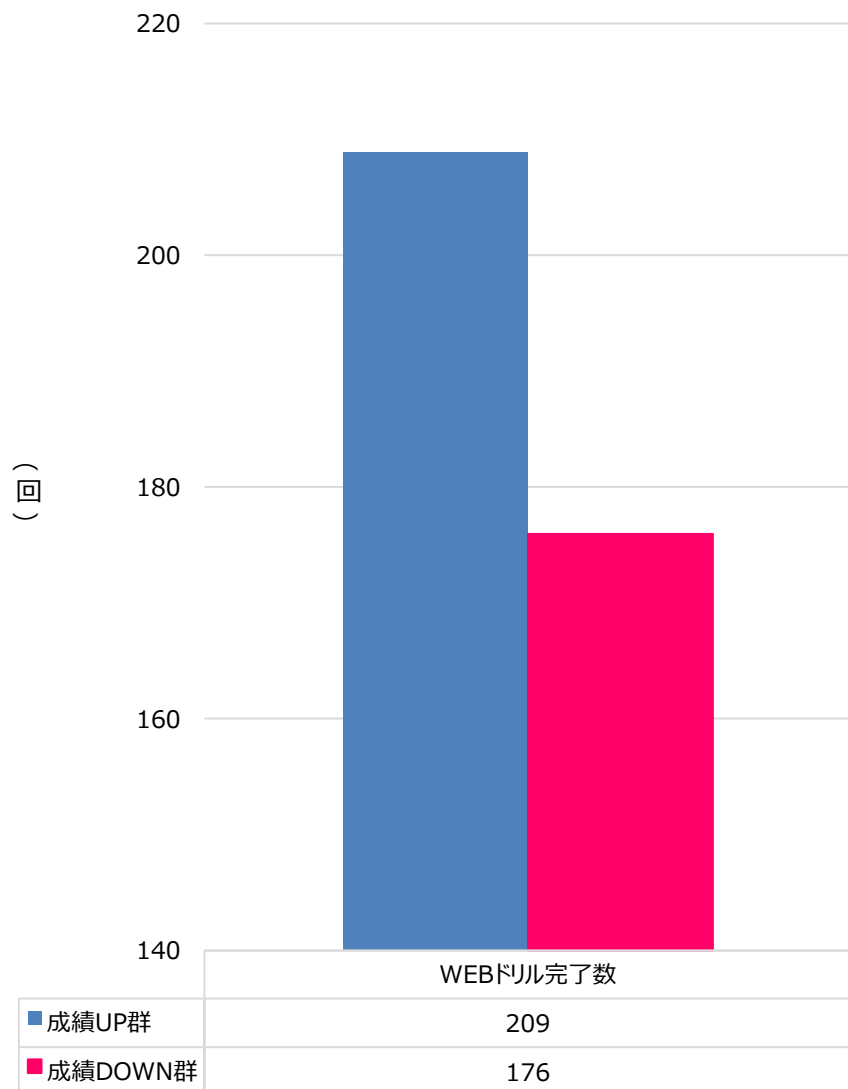


ログ集計期間 2016年度4月1日～2017年7月1日

ログ集計対象 学習記録、学習動画、Webドリル

※母集団の中で、分析対象の機能を各生徒平均1回以上活用した学校で集計。
 ※学習記録・WEBテストは2016年度4月1日～3月31日、
 学習動画は2017年度4月1日～7月1日で集計。

1人あたりの「WEBドリル完了」回数



成績UP群は、成績DOWN群に対して
WEBドリル取り組み回数が多い



問題演習の回数が多い方が、
成績上昇に繋がりと推察される

- 考察まとめ -

日々の学習習慣作りは、
成績上昇と相関があると推察される

先生方のフィードバック頻度が高い方が、
成績上昇に繋がりやすいと推察される

動画の活用は、回数よりも使い方が
重要ではないかと推察される

問題演習の回数が多い方が、
成績上昇に繋がりやすいと推察される

定期的な活用での
学習習慣作り

学習意欲を高める
先生方のフィードバック

問題演習を軸に
動画で理解促進



動画で
わかる

標準で約9千本の動画と問題を組み合わせ、学習効果を高めます。
義務教育～高校の教科書範囲の幅広い学習にご活用いただけます。

動画



1本5分で完了

9,000本の動画

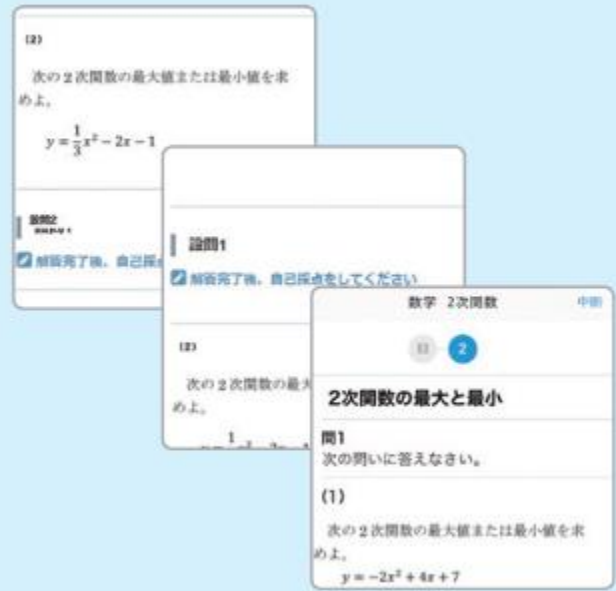
1,000単元を網羅

ベネッセテストと連動



1回約10分で
取り組める

問題



2次関数の最大と最小

問題1
次の問いに答えなさい。

(1)
次の2次関数の最大値または最小値を求めよ。
 $y = -2x^2 + 4x + 7$

※ベネッセのテストのご受験がなくてもご利用いただけます。
※スタディーサポート、進路マップ基礎力診断テストを元にコンテンツをリコメンドします。
(それ以外のベネッセテストに関連したコンテンツ掲載はございません)



自学自習をサポートする「Webドリル」で学習をすることが出来ます
「浮きこぼれ」や「自立して学習できるようになった」生徒にピッタリです



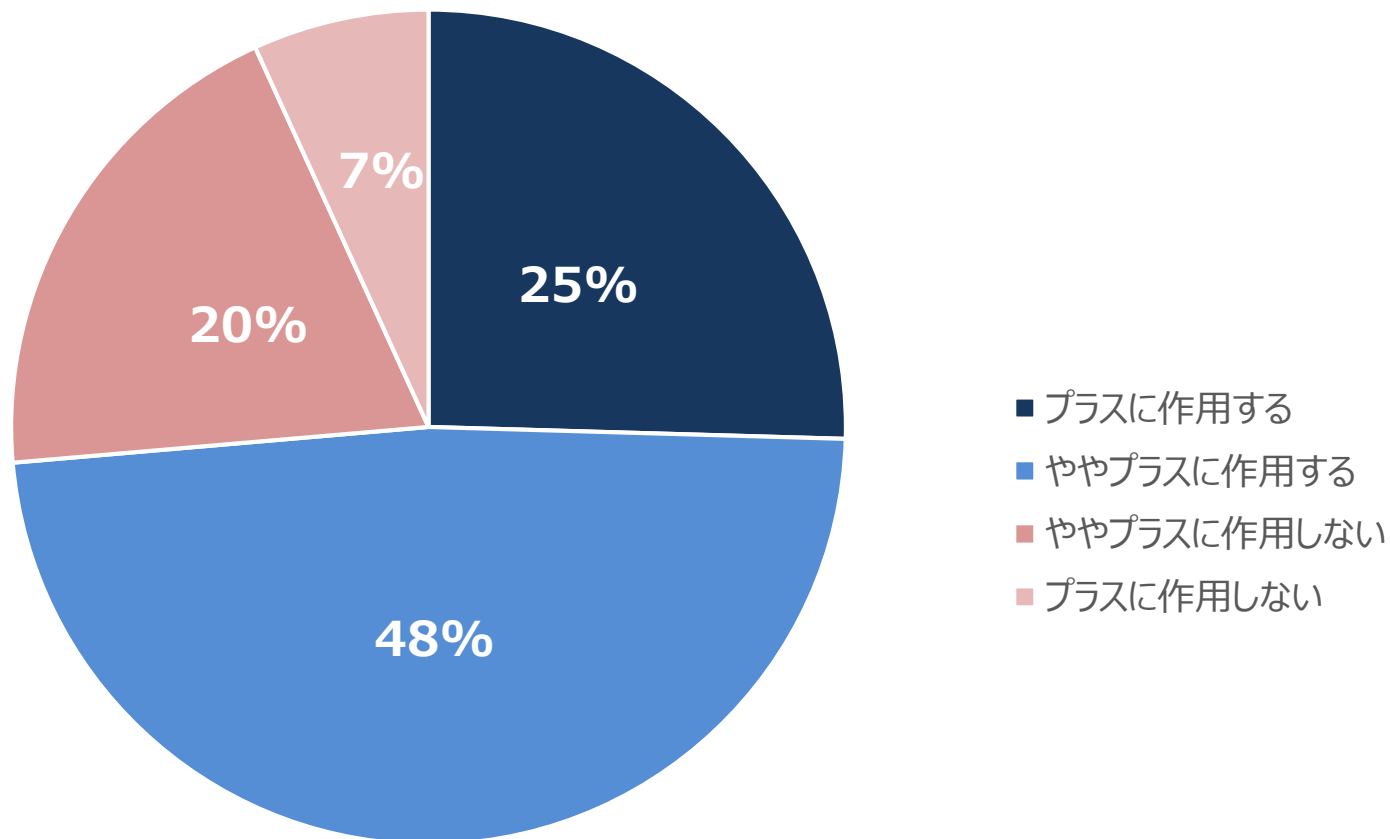
間違えた問題を確認！
「間違えた問題リスト」をタップ！



間違えた問題は蓄積されます！
時間を見つけて取り組もう！

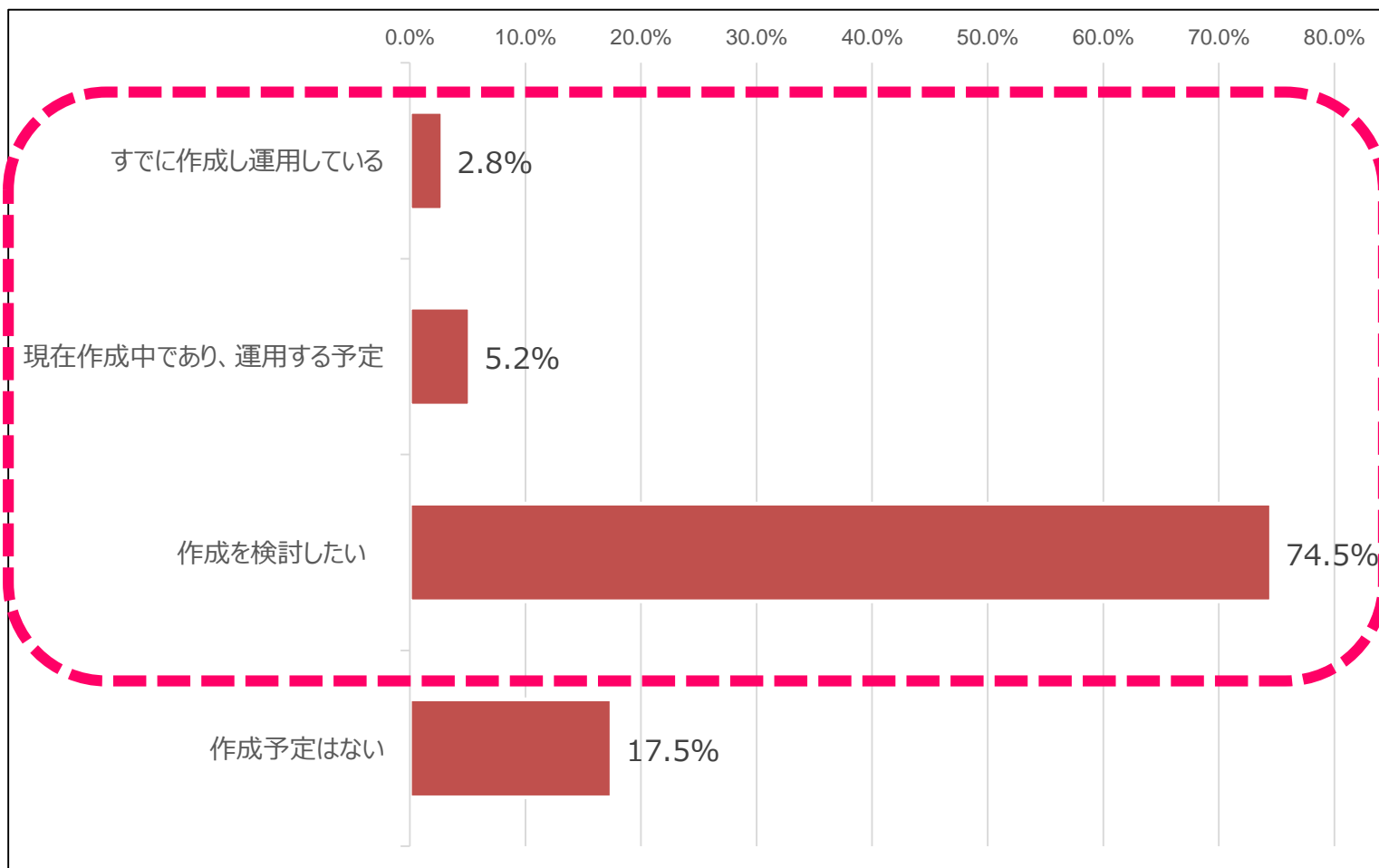
働き方改革

ICT導入の目的	活用例	活用場面	活用機器
授業活用	教科授業内での 双方向型の授業 プロジェクト学習	先生が授業内で	タブレット導入 スマートフォン授業活用
学力向上	1人1人のレベルに あった学習の提供	生徒が家庭学習で 先生が補習などで	スマートフォンの活用 自宅PC PC教室開放
ポートフォリオ	eポートフォリオ作成 コミュニケーション強化	生徒が学校内・外で 先生が振り返り指導で	スマートフォンの活用 自宅PC PC教室開放



* 教育改革・新入試に関する調査アンケートより

「プラスに作用する」「ややプラスに作用する」が73%を占める



* 教育改革・新入試に関する調査アンケートより

80%以上の先生方から
「既に作成し運用」「作成中・検討したい」の回答

<期待・目指したい姿>

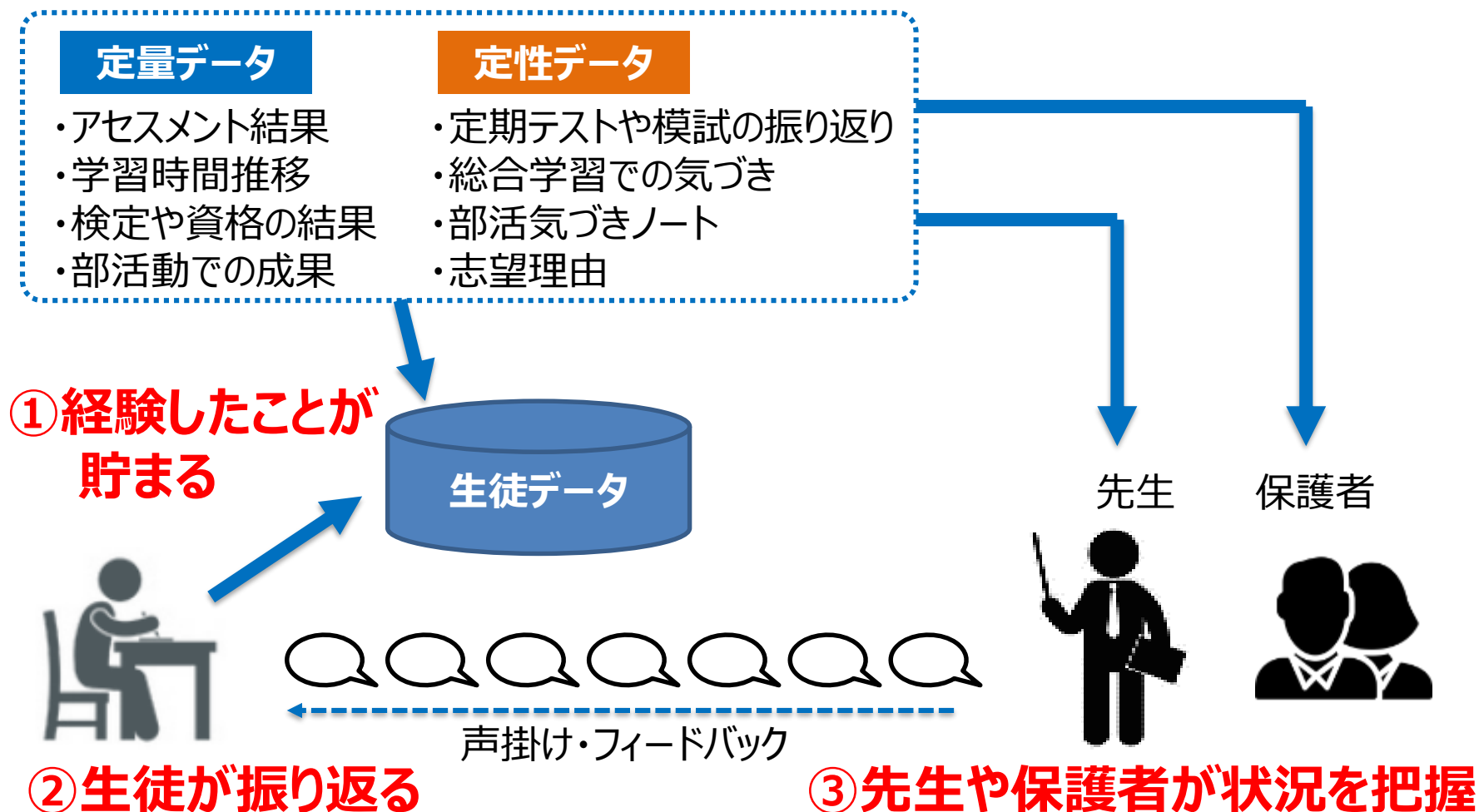
- ・教員が点検しやすいようにシステム構築することが大事である。
- ・eポートフォリオの活用が望ましい。一方で環境整備が難しい。
- ・学びのプロセスを重視し、適切に評価していくことは生徒を多面的な視点でとらえ、正当に評価することにつながる。
- ・自らの活動を、自らが記録し、アピールすることはとても充当。志望理由書にもつながる。
- ・生徒を多面的に見ていくためには必要だ。
- ・振り返りをする事で新たな気づき生まれ、さらなる学ぶ意欲等が生まれると考える。

<課題点や不安の声>

- ・日々の業務が増えることが予想される。
- ・新たな指導の要素が増えることにより、教員の多忙化がますます深刻になる。
- ・生徒情報がどのように入試で活用されるか、検討しなくてはならない。
- ・どう使うか、運用するかがイメージしづらい。
- ・eポートフォリオにしたとして、点検が煩雑になり、結果として負担増とならないかが不安。
- ・現場でのeポートフォリオの認知度が低いのが現状。
- ・生徒がどの程度主体的に書き込めるか、教員間で指導に差が出ないかが不安。
- ・蓄積する情報が、担当する先生によって差が出ないか不安。

* 教育改革・新入試に関する調査アンケートより

生徒の「多面的な把握」や「学ぶ意欲の育成」に、活用できそうという声は多い一方で、先生方の「負担感のない運用」を検討する必要がある



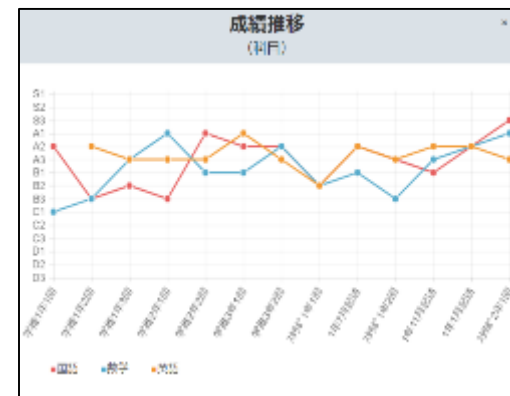
生徒の“気づきや頑張り”を最大化する仕組みを構築することで生徒の“成長”が見える

生徒の「学習経験」に関する情報を一元管理できる

【定量データ】
・校内テスト
・弊社のテスト
(結果自動連携)

自動連携される弊社テスト

進研模試（成績・志望校）・学力推移調査
スタディーサポート 学力リサーチ
スタディーサポート 学習状況リサーチ
実力診断・判定テスト、基礎力診断テスト
GTEC、進路サポート…



アセスメントは自動連携！

【定性データ】
日々の
学習経験

学習記録、授業アンケート、部活ノート
総合学習での気づき、面談の記録…

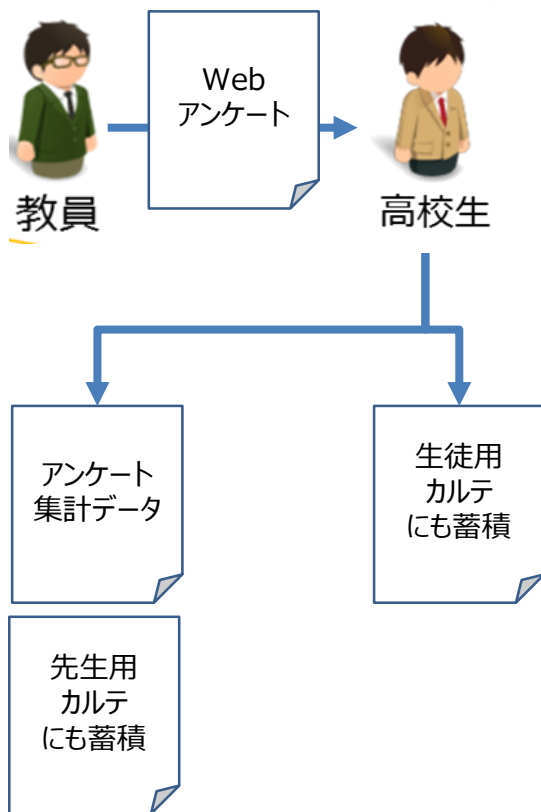
タイトル	カテゴリー
オープンキャンパスの参加報告書	振り返り（総合学習、キャリア・進路）
10年後の自分	振り返り（総合学習、キャリア・進路）
自分史	振り返り（総合学習、キャリア・進路）
学部、学問領域研究	振り返り（総合学習、キャリア・進路）
学期の振り返り	振り返り（総合学習、キャリア・進路）
学科、志望校研究	振り返り（総合学習、キャリア・進路）
オープンキャンパス準備	振り返り（総合学習、キャリア・進路）
1年間の振り返り	振り返り（総合学習、キャリア・進路）
入試科目調査	振り返り（総合学習、キャリア・進路）

振り返りテンプレート標準搭載！

【定性データ】
節目ごとの
学習経験

模試の振り返り、定期テストの振り返り
講演会の感想文、オープンキャンパスの報告
自分史、学部学科研究…

弊社アセスメント結果の自動連携や振り返りアンケート機能により、
生徒の「学習経験」に関する情報を一元管理。生徒も先生も保護者もいつでも確認できる。



▼カルテ画面

Classi

山田先生

生徒カルテ

? ヘルプ
☰ メニュー

3年生 10組 35番

こざかい せいや
小坂井 聖也

生徒メモを入力

基本情報

部活動・クラブ

サッカー部

委員会

風紀委員

出身校

私立恵比寿中学

プリント

近況
志望校
成績
学習
生徒メモ

学習時間推移
振り返りアンケート

振り返りアンケート ?

期末テスト振り返り 2017/12/10(水) ^

<p>成果（良かった点）と課題（良くなかった点）について、それぞれ1つ以上感じたことを書こう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・成果（良かった点） 計画を明確に立てたことで前日に一夜漬けしてやるということがなかったこと。好きな英語で100点を取れたこと。 ・課題（良くなかった点） テスト前に机に向かう時間が少なかったり、机に向かってはいても集中していなかったり、勉強を習慣づけられなかったこと。
<p>前回のテストと比較してどうだったか感じたことを書こう。</p>	<p>一夜漬けではなく計画を立てて、2週間前から期末テストを意識して勉強できたこと。</p>
<p>テスト計画書を添付しよう。</p>	<p>添付しました！</p> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 2px; display: inline-block; margin-top: 5px;"> 📎 テスト計画表.xlsx </div>
<p>記述したアンケートを添付しよう。</p> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p style="font-size: 10px; margin: 0;">アンケート記入欄</p> <p style="font-size: 10px; margin: 0;">氏名</p> <p style="font-size: 10px; margin: 0;">学号</p> <p style="font-size: 10px; margin: 0;">科目</p> <p style="font-size: 10px; margin: 0;">授業時間</p> <p style="font-size: 10px; margin: 0;">授業内容</p> <p style="font-size: 10px; margin: 0;">感想</p> </div>	<p>添付しました！</p> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p style="font-size: 10px; margin: 0;">アンケート記入欄</p> <p style="font-size: 10px; margin: 0;">氏名</p> <p style="font-size: 10px; margin: 0;">学号</p> <p style="font-size: 10px; margin: 0;">科目</p> <p style="font-size: 10px; margin: 0;">授業時間</p> <p style="font-size: 10px; margin: 0;">授業内容</p> <p style="font-size: 10px; margin: 0;">感想</p> </div>
<p>山田先生のコメント</p>	<p>よく頑張った！この調子！</p>

(案)

学習
ポート
フォリオ

生徒の変容（定量）

- 定期テストの振り返り（年5回）
- 外部テストの振り返り（スタサポ・模試・GTEC・GPS等）
- 学習時間調査

生徒の変容（定性）

- 入学オリエン・勉強合宿：中高でどう変わったか確認
- 授業リフレクションシート：授業内での変容を確認
- 探究活動：振り返りだけでなく、生徒同士で共有

進路
ポート
フォリオ

生徒の変容（定量）

- 文理適性検査（年1回）
- 文理選択における提出課題（進路サポート）
- 進路希望調査

生徒の変容（定性）

- 志望校調査：志望の変化を確認
- オープンキャンパス：志望が高くなったか確認
- 文理選択：志望（文理）の意思を確認

●学力の3要素につながるICT活用

